

ぎふ感染症かわら版

平成 28 年 10 月 21 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



RSウイルス感染症に注意しましょう！

RSウイルス感染症は、
小さいお子さんに多い病気で、
夏ごろから患者が増え始め、冬に流行します。
今年も、県内で 8 月下旬から患者が増え始め、
10 月に入り、さらに増加しています。

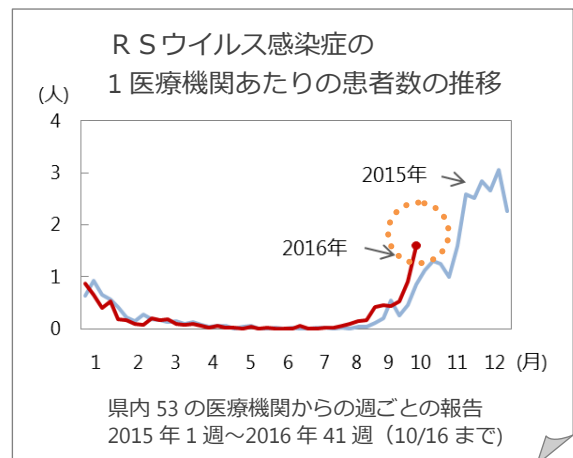
どんな病気？

RSウイルスによる呼吸器の感染症です。
2 歳までに、ほとんどの人が一度は感染し、
その後も、何度も感染することがあります。

感染すると、**熱や鼻水、咳**などかぜのような症状をおこします。

初めての感染では、気管支炎や肺炎をおこすことがあり、

特に赤ちゃんの場合は重い症状になることがあります。



特に注意が必要な人

- ◆ 生後 6 カ月までの乳児
- ◆ 心臓や肺、または免疫不全の基礎疾患をもつ小児
- ◆ ぜんそくなど慢性呼吸器疾患などの基礎疾患をもつ高齢者



どう感染するの？ 予防方法は？

咳やくしゃみなどによる**飛沫感染**や、
手指などを介した**接触感染**により感染します。

家庭内では感染が広がりやすいため、赤ちゃんのいる家庭では、
次のことに心がけ、赤ちゃんにうつさないように気をつけましょう。

- **石けんを使った手洗いや、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう**
- **かぜのような症状があるときは、できるだけ赤ちゃんと身近に接することを控えましょう**
- **咳が出るときはマスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう**

学童期のお子さんが
外でRSウイルスに感染し、
家庭内に持ち込むことが
多いといわれています



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。
くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

